

神奈川県 の 羊 歯 植 物
(8)

大 谷 茂*

Fern Flora of the Kanagawa Prefecture, Japan
(8)

Shigeru OHTANI*
(With 3 Plates)

This report is a continuation of a previous report which appeared in the Science Report of the Yokosuka City Museum, No. 19, 1972.

The ferns that are mentioned in this report are distributed in Kanagawa Prefecture and include the following 5 families: Polypodiaceae, Vittariaceae, Marsileaceae, Salviniaceae and Azollaceae.

The scientific name used and arrangement of family, genus and species are according to Namekata and Kurata "An Enumeration of the Japanese Pteridophytes (1961)".

The explanation of the reference marks for the living form and reproductive form were previously reported in the Science Report of the Yokosuka City Museum, No. 12, 1966.

1. は じ め に

この報告は横須賀市博物館研究報告(自然科学)19号(1972)につづくものである。

ここに発表したものは神奈川県に分布するシダ植物のなかで、ウラボシ科、シシラン科、デンジソウ科、サンショウモ科、アカウキクサ科の5科に属するものである。

各々の種の分布資料は、横須賀市博物館に収蔵してある標本を原則としてあげた。その他に東京大学資料館などの標本も引用した。また著者が確認した自生地ならびに標本や、主要文献の産地なども引用した。

科・属・種の配列および学名は、おもに行方富太郎(沼東)・倉田 悟氏の共著“日本

* Yokosuka City Museum, Yokosuka 238, Japan. 横須賀市博物館。

Manuscript received April 8, 1975, Contribution from the Yokosuka City Museum, No. 250.

Collections Examined;

TI, Department of Botany, Faculty of Science, University of Tokyo.

ToFo, Forest Botany, Faculty of Agriculture, University of Tokyo.

N, National Science Museum, Tokyo.

MHT, Makino Herbarium, Tokyo Metropolitan University.

YCM, Yokosuka City Museum, Yokosuka.

TUE, Tokyo University of Education, Tokyo.

産シダ植物総目録 (1961) によっている。

学名の終りにあげた生活型 (Life form) と繁殖型 (Reproductive form) の符号の説明は、本誌 12 号 (1966), 本報告 (1) にあげている。

神奈川県産の羊歯植物の発表は、本報告 (8) をもって一応終ることとする。

この報告を行なうにあたって資料の提供に協力下さった大場秀章, 守矢淳一, 秋山 守, 石渡 宏, 西山清治等の諸氏ならびにここに完結をみるまでに多大の助言等御指導下さった諸賢に、ここに深く謝意を表するものである。

2. 神奈川県産の種類とその分布

21. Cheiropleuriaceae スジヒトツバ科

この科は 1 属 1 種で, *Cheiropleuria bicuspis* (Bl.) Pr. スジヒトツバ (田中, 1871; 田代 ex 松村, 1890) (ハリガネシダ, 田中, 1871) E (e) E_r D₁ R₁ だけであるが, 本県には産しない。このシダの移植は極めて困難なもので, まだ栽培に成功したということを知ることがない。

22. Polypodiaceae ウラボシ科

Colysis Pr. イワヒトデ属

[付記] *Colysis elliptica* (THUNB.) CHING イワヒトデ (田中, 1871) Ch (e) D₁ R₁

この種は本県に自生しない。Franchet と Savatier の共著「日本植物総目録」第 2 巻 (1879) 248 頁, No. 2473 に記録されている。それによるとタイプは C. J. Maximowicz 氏が長崎で採取したものと, Lud. Savatier 氏が横須賀で採った (No. 1538) ものになっている。イワヒトデが, 横須賀に自生していたであろうか。どう考えても三浦半島にイワヒトデを期待することは無理である。現在イワヒトデの東限産地は伊豆である。

Drymotaenium Makino クラガリシダ属

[付記] *Drymotaenium Miyoshianum* (MAKINO) MAKINO クラガリシダ (三好, 1889) E (e) E_r E_t D₁ R₂

このシダは 1887 年に名和 靖氏が飛騨の字, 闇 (くらがり) 峠で発見したので, この和名がつけられた。本種が神奈川県植物目録 (1933) に丹沢の塔ヶ岳にあったと報じているが, 甚だ疑問である。杉本順一先生も, その著「日本草本植物総検索誌, シダ植物篇」に相模, 丹沢山を引用してられるが丹沢に自生していたとは考えられないし, 何かの誤認であろう。宮代周輔氏も「神奈川県植物目録」(1958) に丹沢の塔ヶ岳をあげているが単なる引用の連続誤謬である。

志村義雄先生は遠江水窪町山王峡の樹幹に着生しているクラガリシダを報告している (1971)。天竜川では鹿塩川, 遠山川, 水窪川および気多川上流に自生していることが明らかになった。元来本種の分布は九州 (大分県—高岡芳憲, 1964), 四国, 中国, 近畿から中部の天竜川東岸地帯までとされていたものである。日本以外では台湾と支那に知られてい

る。丹沢産記録について飯田 和氏のいうように本県産の可能性はうすいが著者も今後確認されることを願うものである。

Grammitis Sw. ヒメウラボシ属

(*Xiphopteris* Kaulf. —*Micropolypodium* Hayata—オオクボシダ属
を独立させる学者もいる)

[237] *Grammitis Okuboi* (YATABE) CHING (= *Xiphopteris Okuboi* (YATABE) COPPEL.) オオクボシダ (矢田部, 1891) (コケシダ, 小野, 1889) E (e) E_r E_t D₁ R₃

丹沢: ユーシン沢 (秋山 守, 1954. 7. 27), 檜洞沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 10. 13 TOFO), 幽神・檜洞丸・大室山 (林 弥栄, 外 3 氏, 1961), 檜洞沢 (秋山 守, 1961. 8. 21 YCM; 1966. 7. 22), 丹沢 (西田誠外 2 氏, 1964—文献産地)。

箱根: (Near Ashinoyu, Hakone on stone embankment S. Okubo in 1888, TI)
この標本が矢田部良吉博士の Holotype である。元理科大学助教授大久保三郎氏が明治 21 年 (1888) 10 月芦ノ湯松坂屋付近の石の築堤で本種を採取し、矢田部博士が之を検して明治 24 年 (1891) 2 月 10 日に公表したものである。箱根植物 (1913) には明治 23 年 10 月、大久保三郎氏が芦ノ湯の付近の石碑にて発見したと記録しているが、上記の原文に記載されているのが正しいと思う。しかし上記原文のなかに、大久保三郎氏が箱根芦ノ湯付近で数回にわたって採集していると報じ、最終的には 1890 年 10 月に採集していると記載されている。このことから考えると、どれがタイプ標本か指定もないので、はっきりしないともいえるのである。

箱根 (平瀬作五郎, 1891. 1. 7 TI), 芦ノ湯 (箱根植物, 1913), 神山 (朝倉修一, 外 3 氏, 1957); 同 (靱山泰一, 1929. 9. 7 No. 431, TI); 同 (府川勝蔵, 1937. 5. 30—横浜植物会植物展, 第 1 回, 1957. 9. 19~22 に出品); 同 (守矢淳一, 1956. 8. 10 標本を確認している); 同 (府川勝蔵, 1957. 5. 30 標本を確認している); 同 (松浦茂寿, 1958), 駒ヶ岳 (守矢淳一, 1956. 8. 2), 二子山 (大谷 茂・府川勝蔵, 1933); 同 (富樫 誠, 1951, 10. 8 TI); 同 (堀川美哉, 1960. 10. 10 YCM), 双子山 (牧野富太郎・松野重太郎, 1912); 同 (箱根植物, 1913); 同 (水島正美, 1951. 9. 8 TI); 同 (松浦茂寿, 1958); 同 (朝倉修一, 外 3 氏, 1957), 上双子 (守矢淳一, 1965. 7. 29), 早川上流 (小田原羊歯研究グループ, 1957)。

オオクボシダは樹幹や岩などに稀に生じる小形のシダである。

Lemmaphyllum Pr. マメズタ属

[238] *Lemmaphyllum microphyllum* PRESL マメズタ (田中, 1871) E (e) E_r E_t D₁ R₁

この種は暖帯のシダで、普通は岩上や樹幹につくが、時には石垣や墓石などに着生することがある。このシダにはマメシダ、イシマメ (Franchet と Savatier の共著, 日本植物総目録, 1879), イワマメ, マメゴオケ, カガミゴケ, カガミグサなどの別名もある。カガミグサやカガミゴケは漢名の鏡面草からきた名である。葉には栄養葉 (裸葉) と孢子葉 (実葉) の 2 型がある。根茎は糸状で細長く横に這う。

川崎： 登戸（東邦大，薬学科 2 回卒業生，1932—文献産地）。

横浜： 横浜 (Maximowicz, 1879—文献産地)，帷子川流域，白根・上白根（出口長男，1953—推定比較量は極めて稀，極めて少いとしている—文献産地），南区弘明寺（長谷川義人，1955. 11. 20 YCM—同氏は戸塚・六浦の両地区でも確認している），南区上野庭（かみのぼ）・日野のシイノキに着生（出口長男，1965—文献産地），白根不動・上白根のものは現在見られない（出口長男，1965—文献産地），金沢区朝比奈（村上司郎・野間俊之，1958. 5. 11），朝比奈峠（山田昌代，1967. 8. 17—この標本は確認している），金沢区野島（のじま）のケヤキや岩石に着生（出口長男，1965—文献産地）。

横須賀： 横須賀 (Savatier, No. 1533, 1879—文献産地)，獄島（大谷 茂，1948. 5. 25 YCM），田浦泉町温泉谷戸（石渡 宏，1963. 1. 19），池上（小板橋八千代，1965. 12. 5 YCM），衣笠城趾（大谷 茂，1966. 2. 9 YCM）。

逗子： 神武寺（石渡治一，1951. 8. 7 YCM）；同（大谷 茂，1959. 9. 24 YCM）。

鎌倉： Kamakura (T. Makino, 1915. 3. 7 TI)，鎌倉（府川勝蔵，1928. 7. 20—標本を確認している），半僧坊（間瀬美保子，1959. 9. 24 YCM）。

江ノ島： 相州江ノ島（松村任三，1877. 12. 30 TI—採集者名がないが松村博士と推定した，大場秀章氏）。

平塚： 下吉沢（しもきさわ）字坂里（守矢淳一，1970. 4. 10—さらに同市中原や豊田の墓石や樹木のもとに着生している）。

大磯： 高麗山 (M. Honda, 1926. 3. 17 TI)；同（守矢淳一，1952. 12. 26）。

丹沢： 大山・札掛・幽神・世附（林 弥栄外 3 氏，1961—文献産地）。

山北： 洒水滝（遠藤将光，1957. 10. 20 YCM）；山北（石渡 宏，1962. 1. 14）。

箱根： Hakone Gongen (? 矢田部良吉，1887. 12. 25 TI)，湯本其他（箱根植物，1913—文献産地）。

湯河原： 奥湯河原（守矢淳一，1963. 9. 22）。

Lepisorus (J. Sm.) Ching ノキシノブ属

[239] *Lepisorus annuifrons* (MAKINO) CHING ホテイシダ（牧野，1898）（オオノキシノブ，松村，1886）E (d) E_t D₁ R₁

このシダは 1879 年に伊藤圭介氏が，日光の白根山で採取したのが，はじめである。

丹沢： 塔ヶ岳（神奈川県植物目録，1933—文献産地），白石沢（田代信二・飯田 和・西尾和子，1958. 8. 20）；同（秋山 守，1964. 7. 25），檜洞（秋山 守，1958. 9. 23），大丸・日高の峰（村瀬信義，1959. 8. 8），塔ヶ岳—丹沢山—蛭ヶ岳—檜洞丸，大室山，世附（林 弥栄外 3 氏，1961—文献産地），丹沢（西尾和子，1962），織戸 峠（秋山 守，1969. 7. 26）。

箱根： 箱根（神奈川県植物目録，1933—文献産地）；同（松浦茂寿，1958—文献産地）。

湯河原： 大観山（朝倉修一，1940—文献産地）稀。

宮代周輔氏の自著「神奈川県植物目録」（1958）にはホテイシダの産地として，丹沢の塔ヶ岳と箱根をあげているが，これは神奈川県植物目録（1933）を引用したものである。

[240] *Lepisorus Onoei* (FR. et SAV.) CHING ヒメノキシノブ (牧野, 1897) (ミヤマイツマデグサ, 朝寝斎蛤嘲, 羊歯目録) ヨロイラン (同), ヨロイシダ (同) E (e) E_t D₁ R₁

川崎: 登戸 (東邦大学薬学科 2 回卒業生, 1932—文献産地)。

津久井: 城山 歌川義男, 1955. 9. 18)。

足柄上郡: 道了山 (伊藤 洋, 1956)。

山北: 山北 (伊藤 洋, TI); 洒水滝の上流, 滝沢川 (大谷 茂, 1962. 2. 4 YCM)。

丹沢: 札掛 (倉田 悟, 1956 TOFO), 檜洞沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957), 同 (秋山 守, 1959. 9. 23; 1960. 8. 4), 同 (大谷 茂, 1961. 8. 28 YCM), 大山, 札掛—塔ヶ岳—丹沢山—蛭ヶ岳—檜洞丸—犬越路—大室山, 幽神, 世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 西沢 (田代・飯田・西尾, 1958. 8. 18), 用木沢 (同, 1958. 8. 19), 白石沢 (同, 1958. 8. 20), 塔ヶ岳—幽神 (大場秀章 No. 10848, 1962. 8. 23 TI), 幽神—檜洞沢 (大場秀章 No. 10855, 1962. 8. 23 TI), 塔ヶ岳—幽神—檜洞沢 (大場秀章 No. 10836, 1962. 8. 23 YCM), 箒沢 (大谷 茂, 1963. 5. 5 YCM), 丹沢 (石渡 宏, 1963. 5. 5), モロクボ沢 (秋山 守, 1964. 7. 24)。

小田原: 飯泉観音堂 (伊藤和貴, 箱根植物, 1913—文献産地)。

箱根: 丸岳 (箱根植物, 1913—文献産地), 箱根 (T. Nakai—中井猛之進—1930. 10. 5 TI); 同 (久内清孝, K. Hisauchi 1931. 4. 26 TI), 神山 (府川勝蔵, 1933. 6. 9 標本を確認している), 小塚山 (大涌谷温泉—仙石原) (水島正美, 1949. 10. 9 TI), 上湯 (守矢淳一, 1955. 8. 26), 金時山 (小田原, シダ研究グループ, 1957), 同 (倉田 悟, 1961 TOFO), 畑宿 (大谷 茂, 1963. 8. 17 YCM)。

湯河原: 奥湯河原 (大谷 茂, 1957. 11. 10 YCM), 日金山付近 (倉田 悟, 1961 TOFO)。

道了山・箱根・日金山 (朝倉修一・飯田 和・田代信二・西尾和子, 1957—文献産地)。

ヒメノキシブは日本では小野職懿 (もとよし) のものをタイプとして, Franchet 氏と Savatier 氏の共著, 日本植物総目録 (1879) にて, *Polypodium Onoei* FR. et SAV. として発表されたものである。

[241] *Lepisorus Thunbergianus* (KAULF.) CHING ノキシブ (田中, 1871) E (e) E_t E_r D₁ R₁

本種は古くからヤツメランと呼ばれ民間薬として知られていた。またイツマデグサの名もあった。

川崎: 登戸 (東邦大学薬学科 2 回卒業生, 1932—文献産地)。

横浜: 藤塚町 (出口長男, 1952. 11. 27 YCM—同氏はミヤマノキシブとしていたが, 著者は本種と同定した), 杉田 (府川勝蔵, 1934. 8—標本を確認している), 三ツ池附近 (鶴見高校, 米田定弘・遠山三樹夫 No. 14109, 1950—文献産地), 南区弘明寺 (長谷川義人, 1955. 10. 30 YCM), 南区中里 (長谷川義人, 1955. 12. 25 YCM); 同 (長谷川, 1956. 3. 1 YCM), 金沢区六浦 (村上司郎, 1955); 同 (高桑正敏, 1961. 2. 10 標本を確認している), 金沢区金沢町 (大谷 茂, 1960. 11. 3 YCM), 戸塚区戸塚 (村上司郎, 1963. 8)。

横須賀：横須賀 (Savatier No. 1541, 日本植物総目録, 1879—文献産地), 大楠山 (石渡 宏, 1961. 5. 3), 阿部倉 (小板橋八千代, 1966. 1. 25 YCM)。

逗子：神武寺 (守矢淳一, 1949. 12. 20); 同 (石渡治一, 1951. 8. 7 YCM)。

鎌倉：鎌倉 (牧野富太郎, 1915. 1. 31 TI); 同 (久内清孝 No. 1264, 1915. 1. 31 TI); 同 (伊藤 洋, 採集年月日の記録がない, TI)。

平塚：土屋琵琶 (守矢淳一, 1969. 6. 28), 下吉沢, しもきさわ (守矢, 1969. 11. 23) 同氏はこの他平塚市の標本産地として, 高根・万田・出縄・上吉沢などをあげている (1970)。

大磯：高麗山 (M. Honda, 本田正次, 1925. 3. 8 TI); (同守矢淳一, 1954. 10. 3)。

中郡：成瀬村 (逸見 操, No. 2234, 1952. 6. 8 標本を同定した)。

愛甲郡：玉川村浅間山 (逸見 操 No. 2095, 1951. 11. 11 この標本を同定した)。

山北：洒水滝上流滝沢川 (石渡 宏, 1961. 11. 12 YCM; 1962. 2. 4); 同 (大谷 茂, 1962. 1. 14 YCM)。

津久井郡：城山 (村瀬信義, 1960 標本を確認している), 石老山 (斉藤照一, 1960. 7. 15 YCM)。

丹沢：札掛 (倉田 悟, 1956 TOFO), 白石沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958. 8. 20), 大山・札掛・幽神・世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), Mt. Tanzawa (M. Togashi, 富樫 誠, 1961. 8. 26 TI), ヤビツ峠～札掛 (大場秀章 No. 10781, 1962. 8. 21 TI), 丹沢山～蛭ヶ岳 (小粥康治, 1962. 9. 22 YCM), 丹沢 (石渡 宏, 1963. 5. 5)。

箱根：塔ノ沢—Hakone Tono sawa hen (矢田部良吉—大場秀章氏推定, 1886. 12. 24 TI), 湯本其他 (箱根植物, 1913—文献産地—同書にはノキシノブについて次のように説明している“ノキシノブは全国到る所に見受くるものにして, 小田原辺にても所々の古き檐や樹枝に着生し景観を高尚ならしむるものなり云々と”)。

真鶴：真鶴 (M. Honda, 本田正次, 1925. 2. 22 TI)。

湯河原：奥湯河原 (石渡 宏, 1961. 12. 26); 同 (守矢淳一, 1965. 1. 2)。

[242] *Lepisorus Thunbergianus* (KAULF.) CHING

var. *angustus* (CHING) KURATA ナガオノキシノブ (根本莞爾, 1936) (オナガノキシノブ, 牧野・根本, 1931) (ホソバノキシノブ, 杉本順一, 1951) E (e) E_t E_r D₁ R₁

丹沢：蛭ヶ岳附近 (田代信二・飯田 和, 1957), 檜洞 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958. 8. 19), 幽神沢 (秋山 守, 1960. 8. 4 YCM)。

このシダのタイプは支那のものである。現在のところ本州の上野から甲信, 東海をへて越前, 近畿まで分布しているようである。

[243] *Lepisorus ussuriensis* (REGEL et MAACK.) CHING

var. *distans* (MAKINO) TAGAWA ミヤマノキシノブ (牧野, 1898) E (e) E_t E_r D₁ R₁

丹沢：(ブナの樹幹によく着いている)。札掛 (倉田 悟, 1956 TOFO), 大山上社附近 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957—著者も山頂で採取したが, そのときの標本は戦

災で焼失した、しかし現地ではしばしば確認した)、犬越路(守矢淳一, 1957. 10. 27), 用木沢(田代・飯田・西尾, 1958. 8. 19), 白石沢(同, 1958. 8. 20), 塔ヶ岳~長尾尾根(村瀬信義, 1960—文献産地), 大山, 札掛—塔ヶ岳—丹沢山—蛭ヶ岳—檜洞丸—犬越路—大室山, 長者舎—風巻—原小屋—蛭ヶ岳, 幽神, 世附(林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 札掛一の沢考証林(大谷 茂, 1962. 5. 20 YCM), 石棚山~檜洞丸(ブナに着生)(西田誠, 1962. 7. 2—文献産地), 塔ヶ岳~丹沢山(西田 誠・栗田子郎・大場秀章, 1962. 8. 22—文献産地), 塔ヶ岳・竜ヶ馬場(大場秀章 No. 10801, 1962. 8. 22 TI), 幽神~檜洞沢(大場秀章 No. 10853, 1962. 8. 23 TI), 丹沢(石渡 宏, 1963. 12. 29)。

箱根: Hakone (T. Makino—牧野富太郎, 1886. 9. 27 TI), 箱根神社~湖尻・神山(ブナに着生)(伊藤和貴, 1913—箱根植物, 文献産地), 丸岳(松野重太郎, 箱根植物, 1913—文献産地), 元箱根・神山(箱根植物, 1913—文献産地), 箱根 (T. Nakai—中井猛之進, 1929. 6 TI), Sounzan—Mt. Kamiyama, Hakone (M. Mizushima—水島正美, 1951. 5. 19, TI), 台岳・二子山・金時山(小田原シダ研究グループ, 1957), 神山(守矢淳一, 1960. 9. 22), 駒ヶ岳(守矢淳一, 1963)。

湯河原: 奥湯河原(田代・飯田・西尾, 1957)。

ミヤマノキシノブの母種 *Lepisorus ussuriensis* はシベリアの東部, 満洲, 朝鮮, 济州島や中国の北部に分布しているものである。

Loxogramme (Bl.) Pr. サジラン属

[244] *Loxogramme grammitoides* (BAK.) C. CHR. ヒメサジラン(牧野, 1896) E (e) E_r D₁ R₁

丹沢: 丹沢山の尊仏寄り(伊達健夫, 1939. 8. 10—府川勝蔵氏所蔵標本で, 著者はこれを確認している), 白石峠(秋山 守, 1955. 7. 27), 蛭ヶ岳(宮代周輔, 1958—文献産地), 白石沢(佐宗 守, 1960. 6. 12; 7. 21 YCM), 蛙ヶ丸(秋山 守, 1960. 6. 12), 世附(林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 丹沢(西田誠外 2 氏, 1962. 8. 22~24—文献産地)。

足柄上郡: 道了山(田代信二, 1958. 7)。

箱根: 小塚山(田代信二, 1957. 8. 16 YCM), 早川上流(小田原シダ研究グループ, 1957. 8. 16), 畑宿(田代信二, 1957. 12. 14)。

湯河原: 奥湯河原(田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957); 同(脇田圀輝・陣野一郎, 1959); 同(守矢淳一, 1965. 1. 3)。

[245] *Loxogramme salicifolia* MAKINO イワヤナギシダ(田中, 1871) E (e) E_r D₁ R₁

丹沢: 塔ヶ岳~幽神, 世附(よずく)(林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 丹沢(西田誠外 2 氏, 1962. 8. 22~24—文献産地)。

箱根: 箱根(神奈川県植物目録, 1933—文献産地), 須雲川弁天沢落合の下流(沢田武太郎, 1934. 11. 17); 須雲川(松野重太郎, 1935. 7. 27—府川勝蔵氏所蔵標本で, 著者はこの標本を確認している); 須雲川(小川里江, 1956. 5. 3 YCM)。

湯河原: 湯河原(箱根植物, 1913—文献産地); 同(神奈川県植物目録, 1933—文献産地), 奥湯河原(大谷 茂, 1933—戦災で焼失した); 同(田代信二・飯田 和・西尾和子,

1957); 同 (石渡 宏, 1961. 12. 26 YCM); 同 (守矢淳一, 1965. 1. 9)。

松浦茂寿氏の箱根植物目録 (1958) には, 明らかに (県目) と付記して, 前記の「神奈川県植物目録 (1933)」の本種の産地を引用したことを示している。

また宮代周輔氏の「神奈川県植物目録 (1958)」に本種の産地として, 箱根, 湯河原をあげているが, これも前記の「神奈川県植物目録 (1933)」の単なる引用にすぎない。

(付記) 本種の裸葉がヤヤ規則的に 2~3 対の裂片を左右に出すものが, 1964 年 9 月井上康彦氏によって, 佐賀県 (肥前) 東松浦郡厳木町 (Kiuragi-machi) 広瀬の山で発見され, 倉田 悟先生は *Loxogramme salicifolia* MAKINO form. *Pinnatifida* KURATA フグレイワヤナギシダとして発表された (1965). 今のところ裸葉のみしか見出されていないが, 同一根茎からは常にこのような葉を出しているといわれている。タイプ標本は東京大学農学部林学科に收藏されている。

[246] *Loxogramme saziran* TAGAWA サジラン (田中, 1871) E (e) E_r D₁ R₁

津久井: 石老山 (芥藤照一, 1960. 7. 15 YCM)。

中郡: 広沢寺温泉付近 (M. Togashi—富樫 誠, 1972. 2. 18 TI)。

厚木市: 七沢—ならさわ (逸見 操, 1959. 4. 19 YCM)。

丹沢: 丹沢, 山神峠 (H. Kanai, 1953. 5. 31 TI), 足柄上郡丹沢モチコシダ (金井弘夫, 1953. 5. 31 TI), 幽神 (秋山 守, 1955. 7. 27 YCM), 玄倉—山神峠 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 7. 31), 大滝峠 (佐宗 守, 1957. 10. 25), 大日沢 (村瀬信義, 1960—文献産地), 大山, 玄倉 (山神岳), 幽神 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 用木沢 (田代信二外 2 氏, 1958. 8. 19), 白石沢 (田代信二外 2 氏, 1958. 8. 20), 丹沢 (西田 誠外 2 氏, 1962—文献産地, 西田氏はここで本種を亜熱帯性シダといっている)。

大山・丹沢山・道了山・箱根 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

丹沢・大山・道了山・箱根・湯河原 (宮代周輔, 1958—文献産地)。

道了山・畑宿 (朝倉修一外 3 氏, 1957—文献産地, 稀としている)。

湯本・湯河原 (箱根植物, 1913—文献産地)。

箱根: 箱根 (松村任三—採集者名がないが大場秀章氏が推定した, 1884. 3. 31 TI), 道了山の杉林 (伊藤和貴, 1913—文献産地), 神山 (寺島浩一, 1954. 5. 15 YCM), 須雲川 (府川勝蔵, 1954. 6. 20—この標本を著者は確認している); 同 (大谷 茂, 1958. 11. 23 YCM), 畑宿 (守矢淳一, 1955. 9. 25), 箱根・奥湯河原 (大内尚樹 No. 5354, 1964. 11. 29 TI)。

湯河原: 奥湯河原 (石渡 宏, 1961. 12. 26), 同 (石渡 宏, 1966. 5. 3), 同 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE)。

Microsorium Link. ヌカボシクリハラシ属

[247] *Microsorium subhastatum* (BAK.) CHING ヤノネシダ (田中, 1871) Ch (e) D₁ R₁

湯河原：湯ヶ原(杉本順一, 1928. 7. 4 TI), 湯河原～日金峠間(S. Matsuda, 1904. 6. 2 TI), 湯ヶ原(松浦茂寿, 1958—文献産地), 日金山道(長谷川義人, 1956. 6. 10 YCM), 伊豆湯河原泉地区(田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957); 同(田代信二, 1957. 3. 23 YCM); 同(石渡 宏, 1960. 1. 15; 同, 1961. 12. 10 YCM), 奥湯河原(大谷 茂, 1958. 11. 15 YCM)。

ヤノネシダを杉本順一氏は *Neocheiropteris* クリハラノ属に入れている—1966)。

Neocheiropteris Christ クリハラノ属

[248] *Neocheiropteris ensata* (THUND.) CHING クリハラノ (田中, 1871) Ch (e)
D₁ R₁

この種は徳川末期に出た岩崎灌園の本草図譜(1828)ならびに A. Franchet 氏と Lud. Savatier 氏の共著, 日本植物総目録(1879)に, すでに知られていた。

横浜：金沢区朝比奈(村上司郎・野間俊之, 1958. 1. 26), 同区釜利谷町(高桑正敏, 1962. 3. 27—著者がこの標本を同定した), 同区白山道樹林下岩崖(平沢愛三, 1968)。

横須賀：Yokoska—原文による(Savatier No. 1540, 1879—文献産地, 日本植物総目録 No. 2464), 武山(大谷 茂, 1952. 9. 20 YCM), 大楠山麓, 前田川上流釜尻谷の支谷(大谷 茂, 1954. 1. 8 YCM), 衣笠城趾, 大谷戸川(大谷 茂, 1954. 2. 15 YCM), 十三峠(大谷 茂, 1960 YCM), 大明寺(小板橋八千代, 1966. 2. 7 YCM), 同寺の裏山(小板橋, 1971. 12. 2 YCM), 馬堀, 横須賀市博物館附属自然教育園—横須賀市保護地区(大谷 茂, 1955 自生を確認—昭和49年7月7日の集中豪雨による崖崩れで消失した), 横須賀地域で, 古くは著者がウリノキのある畠山の奥谷で, すでに1948年5月31日に本種の群生しているのを確認している。

葉山：二子山(石渡治一, 1951. 8. 8 YCM); 同(大谷 茂, 1953. 4. 1 YCM), 上山口木古庭—きこば—不動滝谷戸(大谷 茂, 1953. 12. 23 YCM), 長柄奥地(大谷 茂, 1953. 5. 17 YCM), 前田川上流仏塚(大谷 茂, 1959. 12. 29 YCM)。

逗子：神武寺(M. Honda—本田正次, 1924. 12. 23 TI); 同(岡 現二郎, 1925 TI); 神武寺の山(T. Nakai—中井猛之進, 1931. 6. 14 TI); 神武寺(津山 尚, 1932. 11. 27 TI); 同(府川勝蔵, 1934. 9—この標本を著者は確認している); 同(大谷 茂, 1949. 10. 30 YCM); 同, 1953. 7. 30 YCM; 同, 1955. 8. 10 YCM; 同, 1955. 11. 15 YCM); 同(長谷川義人, 1956. 1. 2 YCM); 同(大場秀章, 1959. 11. 3 YCM); 同(岩城 潔, 1960. 10. 23 YCM), 岩ヶ谷神明社—桜山大神宮の岩壁に大群落(大谷 茂, 1956. 9. 28 YDM)。神武寺における本種を沼間参道にて著者は1974年8月9日確認している, それは逗子市教育委員会の依頼で逗子市内教員の研修会として, 神武寺の植物について著者が現地指導をしたときのことである。しかし以前よりだいぶ減少したように思われた。また著者は鐙摺(あぶずり)の奥地岩壁に大群落をしている本種を確認している(大谷 茂, 1955—野津良知氏を案内したのもこのところである)。

鎌倉：鎌倉(水島正美, 1949. 12. 4 TI), 佐助—さすけ(石渡 宏, 1963. 8. 30)。

丹沢：大山町(T. Sato—佐藤達夫, 1925. 4. 11 TI), 大山・玄倉(林 弥栄外3氏, 1961—文献産地, 稀産種としている), 丹沢(西田 誠外2氏, 1964—文献産地, 本種を

西田 誠氏は亜熱帯性シダといっている)。

山北： 平山滝—山北の附近平山，ひらやまに滝あり灑水—しゃすいノ瀑と称す(伊藤和貴，箱根植物，1913—文献産地)，山北(Sh. Hattori, 1922. 11 TI)，洒水滝(大谷茂，1956. 6. 16 YCM)；同(遠藤将光，1957. 10. 20 YCM)；同(秋山 守)，1960. 5. 15 YCM)；同(守矢淳一，1961. 11. 12)；同(石渡 宏，1961. 11. 12)。

湯本・湯河原(箱根植物，1913—文献産地)。

丹沢山・塔ヶ岳・蛭ヶ岳・焼山岳・大山・箱根(神奈川県植物目録，1933—文献産地)。

前記，神奈川県植物目録の産地に鎌倉・神武寺・山北を加えている(宮代周輔，1958—文献産地，神奈川県植物目録)。

入生田(小田原)・湯本・湯ヶ原・泉・平山滝(朝倉修一外 3 氏，1957—文献産地)。

入生田・湯ヶ原(松浦茂寿，1958—文献産地)。

箱根： 湯本旧道発電所(松野重太郎，1913—文献産地，箱根植物)，須雲川(小川里江，1956. 5. 3 YCM)；同(石渡 宏，1960. 3. 3)。

湯河原： 湯河原(長谷川義人，1951. 6. 3 YCM)；同(大谷 茂，1957. 11. 10 YCM)；同(同，1961. 12. 26 YCM)；同(守矢淳一，1963. 9. 24)；同(石渡 宏，1961. 12. 26)；同(石渡 宏，1964. 1. 15)。

達磨山(I. Hurusawa, 1947. 4. 7 TI—これは伊豆の達磨山であろうか)。

Phymatodes Ching ミツデウラボシ属
(=Crypsinus Pr., Phymatopsis Ching)

(付記) *Phymatodes Engleri* (LUERSS.) CHING タカノハウラボシ (田代 ex 松村，1890) E (e) E_r D₁ P₁

本種を箱根植物(1913—文献)の本文のなかで，とりあげているが甚だ疑問である。しかし本書の末尾にある箱根植物目録には見られない。参考のために，本文中の“箱根の羊歯一斑”にでている本種の項をあげてみると「山北の附近平山に滝あり，灑水ノ瀑と称す。この附近ツルデンダ，イワデンダ，オオバノハチジョウシダ，タカノハウラボシ，オニシダ，メヤブンテツ，クリハラン，ヘラシダ，オオバイノモトソウ等を産す」とある。

タカノハウラボシの分布は今のところ伊豆であるし，この山北の報告は信じられない。何かの誤認であろう。またオニシダというのがあるが，何のシダであろうか。

[249] *Phymatodes hastata* (THUNB.) CHING ミツデウラボシ (田中，1871) E (e) E_p D₁ R₁

川崎： 登戸(東邦大学薬学科 2 回卒業生，1932—文献産地)。

横浜： 金沢(K. Hisauchi No. 1271, 1932. 2. 10 TI)；金沢区朝比奈(村上司郎・野間俊之，1958. 7. 24—標本を確認している)，鶴見区三ツ池付近(鶴見高校生物教室，1950—文献産地，稀めて少ない)，多摩丘陵帷子川流域，藤塚町・白根不動・月見台(出口長男，1953—文献産地)，南区弘明寺(長谷川義人，1955. 11. 25 YCM)；同(同，1955. 12. 20 YCM)。

横須賀： Yokoska—原文による(Savatier No. 1537, 1879—文献産地，日本植物総

目録, No. 2465), 横須賀 (松村任三, 1880. 11. 25 TI), 猿島 (大谷 茂, 1948. 5. 26 YCM), 観音崎 (斎藤照一, 1959. 10. 15 YCM); 同 (小板橋八千代, 1966. 1. 8 YCM), 大明寺 (小板橋, 1965. 10. 5 YCM)。

三浦市: 小網代 (大谷 茂, 1953. 12. 27 YCM)。

逗子: 神武寺 (大谷 茂, 1948 YCM); 同 (同, 1956. 1. 2 YCM); 同 (同, 1959. 8. 4 YCM); 同 (長谷川義人 1951. 5. 13 YCM); 同 (石渡 宏, 1953. 6. 10), 桜山 (大谷 茂, 1956. 7. 26 YCM)。

鎌倉: 本郷村 (府川勝蔵, 1933. 7. 9—標本を確認している); 同 (村上司郎, 1966. 8. 12), 佐助一さすけ (石渡 宏, 1960. 5. 24)。

江の島: 江ノ島神社の岩壁 (大谷 茂, 1954, 確認している)。

平塚: 高根一たかね (守矢淳一, 1959. 8. 25; 同, 1961. 1. 6), この他に平塚市内の標本産地として守矢氏は千須谷 (せんずや), 土屋 (つちや) 字琵琶 (びわ) および根坂間 (ねざかま) をあげている。

大磯: 高麗山 (守矢淳一, 1961. 1. 6)。

丹沢: 西沢・用木沢・白石沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958. 8. 18-19-20), 大山・ヤビツ峠—札掛・塔ヶ岳—幽神・世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 大山 (大場秀章, 1960. 9. 11 YCM), 塔ヶ岳—幽神—檜洞沢 (大場秀章 No. 10871, 1962. 8. 23 YCM)。

山北: 山北 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

箱根: 箱根 (松村任三, 1881. 7. 23 TI), Hakone Hata—畑宿のこたか (矢田部良吉, 1886. 12. 25 TI), 湯本其他 (箱根植物, 1913—文献産地); 湯本早雲寺玉簾ノ滝 (伊藤和貴, 箱根植物, 1913—文献産地, 湯本早雲寺付近の岩石には發育盛なるを目撃し得べし, 北條氏五代の墓石を訪えばミツデウラボシの發育極めて盛なるを見る。此の際此の時ミツデウラボシ所生の状態を見れば, 斜面にのみ發育し, 決して平なる地上 (岩上のこたか) に生じたるを見ず—原文のまま)。

[250] *Phymatodes hastata* (THUNB.) CHIG

form. *cristatus* NAMEGATA ヤトミウラボシ (行方, 1953) E (e) E_p D₁ R₁
(Fig. 3)

本品種は行方富太郎 (沼東) 氏が下総で 1953 年採取されたものを新品種として発表 (1961) されたものである。その後, 杉本順一氏も之を引用してられる (1966)。

本品種は葉頂が鶏冠状に分裂したものである。この葉端の獅子状になったものを著者は鎌倉で見ている。このときは間瀬美保子氏もおられた。

鎌倉: 寿福寺 (大谷 茂, 1969. 6. 25 発見), 同 (間瀬美保子, 1974. 10. 11 確認, このときの採取品を著者は標本にした)。

発見の日は鎌倉の自然を守る会よりの依頼で寿福寺において著者は「鎌倉のシダ」について講演したときである。寿福寺の庭の縁先の溝の石に一面着生していた。付近の庭の植込のもとにはコヒロハハナヤヤスリが群生していた。何れも間瀬美保子氏は一緒に見ている。このヤトミウラボシはどれも三ツ手に發育したみごとな実葉であった。

[251] *Phymatodes hastata* (THUNB.) CHING

form. *incisus* (MAKINO) NAMEGATA et KURATA フギレミツデウラボシ
(牧野, 1910) E (e) E_p D₁ R₁

横浜: 上野庭一かみのば一崖所, 普通品の群中に 3 株を見出した, 3 年間の培養で新出葉にも固定していることを確認した (出口長男, 1968—文献産地, 10 月下旬撮影の写真もでている)。

愛甲郡半原, 清正公向いの山の崖 (間瀬美保子, 1962. 4. 29 YCM)。

この品種は葉の両縁が細裂するものである。不思議なことに裸葉のみで今までに実葉を誰れも見ない。著者は 1962 年 7 月 14 日に九州屋久島の尾之間 (おのあいだ) で, 神社の裏の崖にあるのを採取したが, 同一根茎からでているものは, すべてフギレであったが裸葉ばかりであった。

[252] *Phymatodes Veitchii* (BAK.) CHING ミヤマウラボシ (田中, 1871) E (d) E_r D₁ R₁ (Fig. 8)

丹沢: 幽神 (大谷 茂, 1950. 6. 14 YCM); 同 (佐宗 守, 1960. 6. 4—府川勝蔵氏所蔵標本で著者はこれを確認している); 同 (秋山 守, 1960. 8. 3 YCM), 幽神沢 (秋山 守, 1964. 8. 11), 桧洞沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 8. 1—田代信二氏標本を横須賀市博物館で収蔵している); 同 (秋山 守, 1960. 6. 26); 同 alt. 1200 m (西田 誠・栗田子郎・大場秀章, 1962. 8. 23), 幽神~桧洞沢 (大場秀章, No. 10854, 1962. 8. 23 TI), 地藏堂 (秋山 守, 1957. 10. 25), 畦ヶ丸 (秋山 守, 1960. 6. 12 YCM), 幽神~桧洞丸~犬越路・玄倉 (山神峠), 稀産 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地, 幽神奥産の生態写真をのせている), 丹沢山塊で確実に着生するシダのなかに, 寒地性シダとして本種をあげている (西田 誠, 外 2 氏, 1964—文献産地)。

山北: 山北 (箱根植物, 1913—文献産地); 同 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地); 同 (神奈川県植物目録, 1958—これは前記の県植物目録, 1933 の引用にすぎない)。

Polypodium Linn. エゾデング属
(= *Marginaria* Bory, *Goniophlebium* Pr.)

[253] *Polypodium Fauriei* CHRIST オシヤグジデング (田中, 1871) E (e) E_t D₁ R₁

丹沢: 幽神 (秋山 守, 1952. 7. 27), 西丹沢, 水ノ木沢 (大谷 茂, 1954. 8. 13 YCM), 桧洞 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957. 8. 1); 同 (西尾, 1958. 8. 19 YCM); 同 (城川四郎, 1967. 10. 5—生品を持参されたので, 著者は本種と同定した), 大山下社附近 (田代・飯田・西尾, 1957), 白石沢 (田代・飯田・西尾, 1958. 8. 20—文献産地); 同 (秋山 守, 1958. 5. 5), 用木沢 (田代・飯田・西尾, 1958. 8. 19—文献産地), 諸戸・大日沢 (村瀬信義, 1960—文献産地), オバケ沢 (秋山 守, 1960. 5. 1), 大山・幽神・世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 札掛 (秋山 守, 1961. 4. 19), 丹沢に確実に自生し樹上に着生する (西田 誠外 2 氏, 1964—文献産地, 調査は 1962)。

山北: 洒水滝上流 (秋山 守, 1960. 5. 15)。

箱根：箱根山 (T. Sawada—沢田武太郎, 1936 TI), 神山 (陣野一郎, 1957), 台岳 (小田原羊歯研究グループ, 1957), 箱根仙石原町品ノ木 (大谷 茂, 1970. 6. 19, ミズナラの大木に着生。この日は雨であったが團 伊玖磨先生夫妻と上記品ノ木のもと團先生の別荘であった広大な山林を見ることにした。ここは今は小田急の Hakone Highland Hotel となっており, すぐ目につくミズナラの大木に着生シダが多いので, 梯子をかけて見るとオシャクジデング, ヒメノキシノブ, ミヤマノキシノブ, ビロードシダを確認することができた。山林に入るとコウヤワラビやクジャクシダがあり, サンショウバラ・ヤマボウシ・カナウツギが満開であった)。

箱根・山北・塔ヶ岳 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

塔ヶ岳・山北・箱根 (宮代周輔, 神奈川県植物目録, 1958—文献産地, これは前記の神奈川県植物目録中の産地を入れかえただけで, 単なる引用にすぎない)。

本種の県内分布上珍しいことがある。それは久内清孝先生が古く 1919 年 3 月 30 日に鎌倉市小袋谷の鎌倉街道に沿った小坂 (こさか) で採取しているのである。以来永いこと同地付近で見あたらなかったが, 再び久内先生は北鎌倉の民家の草葺屋根に着生している本種を 1957 年採取されている。

常緑のシダとして生活型をあらわしたが, 夏に草が枯れる。

オシャクジデングの和名は信州木曾の社貢寺で見つかったことからである。

[254] *Polypodium niponicum* METTENIUS アオネカズラ (田中, 1871) E (e) E_t E_r D₁ R₁

箱根：旧街道畑宿直下の須雲川弁天沢落合 (沢田武太郎, 1931. 6. 16), 箱根須雲川 (府川勝蔵, 1934. 7. 8—横浜植物会植物展, 第 1 回 1957. 9. 19~22 に出品); 同 (久内清孝 No. 2525, 1939. 4. 29 TI), 畑宿 (松浦茂寿, 1940—文献産地), 須雲川 (朝倉修一, 1954. 4. 9 YCM); 同 (大谷 茂, 1954. 12. 5 YCM); 同 (大谷 茂, 1958. 10. 22 YCM), 畑宿 (守矢淳一, 1955. 9. 25), 須雲川 (小川里江, 1956. 5. 3 YCM); 同 (石渡 宏, 1964. 12. 29 YCM); 同 (石渡 宏, 1966. 2. 23)。

湯河原：湯河原道, 広河原 (石福光治郎, 箱根植物, 1913—文献産地) —石福氏は箱根植物の湯河原道の項に「湯河原にありて親しく植物を探らんと欲せば, 此の地の中央を流る藤木川の溪谷に索むるをよしとす。此の川を溯れば, 広河原と云う所あり。風雅なる一茶亭見ゆ。これより坂路凡そ 2~3 町の間を尋ねんか, 蓋し得る所多かるべし。……中略……羊歯類にはアオネカズラあり。イワシボネ・サルノシウガとも呼ばれ, 葉は長楕円状披針形にして鋭尖頭を呈し, 両面に細毛密生す。質薄く洋紙様草質を有し, 生時は緑色なり。根茎は多肉肥厚にして青色を呈し, 互に纏絡して岩石に附着せり。云々」とある。奥湯河原 (大谷 茂, 1933—戦災で焼失); 同 (田代信二・飯田和, 1957. 11. 10 YCM); 同 (田代信二, 1958. 3. 12 YCM); 同 (守矢淳一, 1964. 11. 29)。

本種的生活型に常緑としたが, 夏季葉が枯れるものである。屋久島のシマアオネカズラも現地でも夏は枯れて黄葉から落葉する。シマアオネカズラを当地で栽培しても 8 月頃葉は枯れて 10 月ごろ新葉を出し越冬する。

Pyrrrosia Mirbel ヒトツバ属

[255] *Pyrrrosia linearifolia* (HOOK.) CHING ビロウドシダ (田中, 1871) E (e) E_r E_t D₁ R₁

(学者によっては *Neoniphopsis Nakai* ビロウドシダ属をたてて, *Neoniphopsis linearifolia* (HOOK.) NAKAI を採用している)

丹沢: 大山 (府川勝蔵, 1932. 10. 6—この標本を確認している); 同 (津山 尚, 1933. 4. 7 TI); 同 (守矢淳一, 1953. 7. 25); 大山下社 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1957—西尾和子, 1957. 5. 26 YCM); 大山 (村上司郎, 1964. 5), 山神峠~鹿子平 (金井弘夫 No. 4966, 1953. 5. 31 TI), 山神峠 (田代・飯田・西尾, 1957. 7. 31), 宮ヶ瀬—現在の清川村落合 (逸見 操, 1956. 10. 10 YCM); 宮ヶ瀬・大日沢 (村瀬信義, 1960—文献産地), 札掛一の沢考証林 (大谷 茂, 1962. 5. 20 YCM), 箒沢上流 (大谷 茂, 1963. 5. 5 YCM), 西沢 (田代・飯田・西尾, 1958. 8. 18), 用木沢 (同, 1958. 8. 19), 白石沢 (同, 1958. 8. 20), 大山, 札掛・塔ヶ岳~幽神・世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 宮ヶ瀬~ヤビツ峠の林道 (斎藤吉永, 1975. 4. 7 群落を確認)。

山北: 山北 (K. Teramoto, 1941. 6. 18 TI); 同 (石渡 宏, 1966. 7. 31), 洒水滝 (大谷 茂, 1992. 1. 14 YCM)。

箱根: 仙石湯・矢倉沢 (箱根植物目録, 1913—文献産地), 小田原附近飯泉観音堂の公孫樹に夥しく着生 (伊藤和貴, 箱根植物, 1913—文献産地) 丸岳—ブナの大木に着生 (松野重太郎, 1913—箱根植物, 文献産地), 箱根 (村上司郎, 1957. 8. 9), 仙石原町品ノ木 (大谷 茂, 1970. 6. 19—[253] オシャグジデング箱根の項を参照)。

箱根・塔ヶ岳・丹沢山・津久井の山地 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

仙石原・道了尊 (松浦茂寿, 1958—文献産地, 箱根植物目録)。

[256] *Pyrrrosia Lingua* (THUNB.) FARWELL ヒトツバ (田中, 1871) E (e) E_r E_t D₁ R₁ (Fig. 2, 7)

横須賀: 衣笠城趾中陣旗立岩 (大谷 茂, 1953. 11. 8 YCM); 同 (同, 1966. 2. 9 確認し撮影する); 同 (同, 1972. 1. 7 確認し撮影する), 鷹取山 (大谷 茂, 1954. 7. 24 YCM); 同 (同, 1954. 11. 26); 同 (同, 1956. 7. 25 YCM); 同 (同, 1959. 8. 28 YCM); 同 (大場秀章, 1966. 1. 23 TI)。

逗子: 神武寺鶏冠山 (大谷 茂, 1949. 9. 7); 神武寺 (長谷川義人, 1950. 11. 23 YCM); 同 (同, 1956. 1. 2 YCM); 同 (石渡治一, 1951. 8. 7 YCM); 同 (石渡 宏, 1953. 3. 6); 同 (大谷 茂, 1953. 7. 28 YCM); 同 (同, 1955. 2. 26 YCM); 同 (同, 1957. 8. 21 YCM)。

藤沢: 江ノ島 (榎山泰一 No. 457, 1931. 1. 25 TI); 同 (伊藤 洋, 1931. 1. 25 TI)。

丹沢: 大山・幽神 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 丹沢 (西田 誠外 2 氏, 1962—文献産地, 丹沢でたしかめた着生シダの項に本種をあげている)。

箱根: 湯本, 山北 (箱根植物, 1913—文献産地, 箱根植物目録の項), 湯本早雲寺~玉簾ノ滝に至る道に小さき隧道あり此の上にヒトツバあり (伊藤和貴, 1913—文献産地, 箱根植物), 旧道湯本発電所附近 (松野重太郎, 1913—文献産地, 箱根植物), 湯本 (朝倉修

一外 3 氏, 1957—文献産地), 須雲川 (小川里江, 1956. 5. 3 YCM)。

湯河原: 湯河原 (大谷 茂, 1958. 11. 18 YCM); 同 (石渡 宏, 1961. 12. 26)。

湯河原・須雲川 (松浦茂寿, 1958—文献産地, 箱根植物目録)。

江ノ島・大磯・大山・箱根・湯河原・塔ヶ岳・丹沢山 (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

本種は Thunberg 氏が徳川末期に長崎で採ったものがホロタイプである。また本種にはいろいろな畸形品種があって観賞用となっている。

[257] *Pyrrosia pekinensis* (C. CHR.) CHING イワダレヒトツバ (北川, 1935) E (e)
E_r E_i D₁ R₁ (Fig. 4, 5)

山北: 足柄上郡山北入遠 (ひととお) 皆瀬川上流, 市間橋より左にカーブした右側の岩壁 (飯田 和, 1958. 6. 21); 同 (大村敏朗, 1958. 6 撮影—標本写真, 北陸の植物 1959); 同 (田代信二, 1958. 7. 13 YCM); 同 (朝倉修一, 1962. 5. 6 YCM); 同 (秋山 守, 1959. 12. 29 確認している; 同, 1963. 11. 9 再度確認している); 同 (石渡 宏・西山清治, 1968. 12. 29 確認している), 発見地とは別の付近の地域—乱獲絶滅をおそれて, あえて産地を明らかにしなかった (陣野一郎, 1961. 10)。

イワダレヒトツバは中国の北部, 陝西・山東・山西・熱河・河北・湖北および内蒙 (モンゴル) に分布しているもので, 日本においては此の大陸と隔離分布で知られたヒトツバ属中の珍種である。

日本における発見は古く, 東三河の三輪村 (みわむら) 姥ヶ塚の谷で, 山本 隆氏が 1938 年 (飯田 和氏の発見より 20 年も前のことである) に採取したのが始めである。その後鳥居喜一氏 (1941 年 9 月) が, この三輪村で採取した標本が東京の国立科学博物館に収蔵されているということである。そして鳥居喜一氏は「東三河植物目録」(1944) にラシャシダ *Pyrrosia subfissa* (HAYATA) CHING として記載された。

これよりさき一方京都大学に収蔵されている井波一雄氏採集の標本に田川基二先生は *Pyrrosia pseudo-Pekinensis* (未発表) と記されている。これを林 弥栄先生 (1943) はラシャシダと同定された。鳥居喜一氏はこれに基づいて東三河植物目録にラシャシダと記載したのであろう。

飯田 和氏の発見から, この珍シダの正体を明らかにされたのは倉田 悟先生である。倉田先生はいろいろと検討された結果, 台湾のラシャシダとは異なり, 満洲産に北川政夫先生が命名されたイワダレヒトツバと同じものであると発表された (1959—北陸の植物)。

山北の自生地は足柄層からなる崖で, 同属のイワオモダカやビロウドシダと混生しているということである。

日本のシダフロラに, この珍羊歯をはっきりと加えることのできたのは実に飯田 和氏の鋭い着眼によるもので, 倉田先生は 1958 年度日本シダ界十大ニュースのトップにこれをあげているが当然のことであろう。

飯田 和氏の発見以来, 各地でこのシダを注目するようになり, 新産地が次々と加えられるようになった。始めからの採集記録は次の通りである。

(1) 東三河, 三輪村 (山本 隆, 1938)。

(2) 相模, 山北町 (飯田 和, 1958)。

(3) 遠州, 静岡県愛知県側, 飯田線向市場駅~水窪町, 山住山林道沿い水窪川の河岸, 柳の大木の太い枝幹にヒトツバ, ビロウドシダ, イワオモダカ, シノブと混生 (田中康義, 1960. 5. 5)。

(4) 遠州, 静岡県磐田郡天竜市二俣町, 船明方面に向う山中, 高さ 40~50 m の岩壁 (谷口博之, 1961. 5. 3)。

(5) 下野, 栃木県上野村白岩 (田沼, 1962. 11); 同 (川島俊助, 1963, 第 2 回神代植物公園シダ植物展示会に出品—このときの展示会に産地を示していないが安藤三郎氏も出品している)。

(6) 尾張, 犬山市膳師野一せんじの (水野瑞夫・S. Matsuura, 1964. 5. 9)。

(7) 武蔵, 東京都下, 日原天祖山 (岡田 稔, 1965)。

(8) 肥後, 九州熊本県八代市竜峰山—石灰岩上 (別府 穰, 1970. 11. 22)。

イワダレヒトツバの自生地には, どこでもイワオモダカとビロウドシダが混生していると多くの人是指摘している。このことから, 芹沢俊介先生はイワダレヒトツバは兩種の雑種ではなからうか, という考え方もでてくるといわれている。さらに芹沢先生は, この仲間は難しく問題点も多いといわれている。

記念すべきこの山北の自生地を文化財として保護するために 1969 年 12 月 2 日, 県の天然記念物に指定された。そこでイワダレヒトツバの自生地一帯のシダ植物群落を有刺鉄線で張りめぐらしたが, イワダレヒトツバはいちぢりしく減少し, 現在はほとんど絶滅寸前の有様だと山北町文化財保護委員の松川 浩氏はいっている (昭和 49. 7. 3)。松川氏は 16 年間も栽培増殖に成功しているということであるが, 多くの植栽家も協力して, 何とかこの珍羊歯を山北の現地に, 近い将来立派に復元して永く子孫のために残したいものである。

生薬学でいう石章は中国最古の薬書神農本草經 (後漢時代) に始めて見えるもので, その原植物はヒトツバ *Pyrrosia lingua* FARWELL であるとされている。しかし佐藤潤平氏は満洲の漢薬店の石章はヒトツバではなくて, コヒトツバ *Pyrrosia petiolosa* CHING を主として用いているといっている。また同氏は奉天市天益堂では大石章と称して, イワダレヒトツバを使っていたといっている。牧野富太郎先生 (1931) は「註頭, 国訳本草綱目第 6 冊」石章の欄外に註して“石章をヒトツバに充てているのは, よいと思うが, 植物名実図考 (1880) 卷 16 の石章の図金交翦はヒトツバではなく別種である”といっている。佐藤潤平氏も, この植物名実図考の金交翦はヒトツバではなくて, これはイワダレヒトツバであろうといっておられる。

[258] *Pyrrosia tricuspis* (Sw.) TAGAWA イワオモダカ (田中, 1871) E (e) E_r E_t D₁ R₃

丹沢: 大滝 (秋山 守, 1957. 9. 23), 用木沢 (田代信二・飯田 和・西尾和子, 1958. 8. 19), 白石沢 (同, 1958. 8. 20), 著者は西丹沢水ノ木沢で本種を確認している (大谷茂, 1958. 7), 大山・塔ヶ岳~幽神・大室山・世附 (林 弥栄外 3 氏, 1961—文献産地), 表丹沢清川村宮ヶ瀬 (斎藤吉永, 1975. 4. 7 Photo)。

山北: 洒水滝上流 (石渡 宏, 1966. 7. 31)。

箱根： 仙石湯 (箱根植物, 1913—文献産地), 小塚山 (寺島浩一, 1954. 5. 15 YCM); 同 (松浦茂寿・朝倉修一・勝俣孝一, 1956), 早川上流 (小田原シダ研究グループ, 1957. 8. 16)。

湯河原： 湯河原 (箱根植物, 1913—文献産地)。

大山・箱根・塔ヶ岳・蛭ヶ岳・津久井 (小原), (神奈川県植物目録, 1933—文献産地)。

津久井 (小原)・塔ヶ岳・大山・箱根・平山・蛭ヶ岳 (宮代周輔, 1958—文献産地, 神奈川県植物目録)。

23. Vittariaceae シシラン科

Antrophyum Kaulf. タキミシダ属

[259] *Antrophyum obovatum* BAKER タキミシダ (牧野, 1889) (へビノサジ, 牧野, 1889) E (e) E_r D₁ R₃

湯河原： 奥湯河原 (稲田 稔氏?—岡田 稔氏か—が 1935 年頃ここで採集されたということである); 同 (陣野一郎, 1958. 12—神奈川県新産, 分布の東北限である), 同 (守矢淳一, 1964. 11. 29—著者はこの標本を確認している), 同 (芹沢俊介, 1973. 11. 18 TUE)。

伊豆湯河原： 泉 (飯田 和・国見 卓, 1958. 11. 12—ここでの発見が, きっかけとなって, ついに上記奥湯河原の発見となったものである)。

タキミシダは牧野富太郎先生が 1886 年に土佐上分村二の滝で滝見中に発見されたものだが, 1887 年渡辺 協氏が同地で採取したものがタイプとなっている。本種は滝壺付近や陰湿の谷の岩などに着生しているシダである。日本における分布は越中・相模以西の本州, 四国, 九州である。著者は伊豆 (浄蓮の滝, 1935. 11. 23・大鍋, 1958. 11. 1) や紀州 (尾鷲の南谷溪谷, 1957. 8. 3), 屋久島で本種を採取また確認しているが, まだ本県ではその自生地を確認したことがない。本県のシダとしては稀産に属するものである。

Vittaria Smith シシラン属

[260] *Vittaria flexuosa* FÉE シシラン (田中, 1871) E (e) E_r E_t D₁ R₂

丹沢： 幽神・丹沢山 (武田, とあるが武田久吉先生のことであろうか) — (林 弥栄, 外 3 氏, 1961—文献産地), 丹沢山塊で確実に樹上に着生するシダの項に本種を記録している (西田 誠, 外 2 氏, 1964—文献産地)。秋山 守氏は丹沢山塊のおもに東南西方面を調査している人だが, シシランを採集していないようである。著者もまだ丹沢山塊で確認していない。

箱根： 元箱根? (朝倉修一・飯田 和・田代信二・西尾和子, 1957—文献産地)。

シシランは日本においては上野・常陸・下野・越前以南の本州から四国, 九州, 琉球と広く分布しているが, 本県のシダとしては, 稀産種に属する。

[付記] *Vittaria Fudzinoi* MAKINO ナカミシシラン (藤野寄命 ex 牧野, 1892) (ミヤマシシラン, 吉永悦郎, 1890) E (e) E_t D₁ R₂

丹沢：塔ヶ岳（神奈川県植物目録，1933—文献産地）。

従来この丹沢塔ヶ岳の記録については、誰も疑問としていたものである。その後今日まで誰一人確認したものはない。しかし東京都下の奥多摩日原で岡田 稔氏が1964年11月に発見された。これは関東地方第1号であって、関東にも当然期待できるということの意味するものである。したがって丹沢の記録も注意を要することになる。

この種は1884年（明治17年）藤野寄命氏が伊予の小田深山で発見したのが始めて、タイプは1889年吉永悦郎氏と1894年牧野富太郎先生が、土佐黒滝山での採取品によっている。

本種の分布は今のところ武蔵、甲斐、信濃、伊豆、遠江、三河、丹波、伊勢、大和、紀伊、石見の本州・四国・九州・屋久島となっている。屋久島ではすでに古くは古瀬 潔氏が1961年に採取され、その後屋久島の小杉谷で藤岡 昇氏が1964年7月29日に採取されている。著者は1963年8月18日、鹿児島県、北薩の紫尾山頂ブナ林のブナにおびただしく着生している本種に驚いたことがあった。このときの標本は本館に収蔵されている。

Marsileaceae デンジソウ科

Marsilea Linn. デンジソウ属

[261] *Marsilea quadrifolia* LINNAEUS デンジソウ（松村，1884）HH (d) D₁ R₁
 (Fig. 1)

川崎：登戸（東邦大学薬学科第2回卒業生，1932—文献産地），川崎市大島—旧橋樹郡田島村（久保田金蔵，No. 1341，1939. 9. 10 YCM）。

横浜：金沢（K. Hisauchi，久内清孝 No. 1219，1922. 10. 29 TI）—金沢八景から金沢文庫，釜利谷にかけの付近一帯の水田や溝は昔の群生地で、著者は大正年間まで、その自生を確認している。

横須賀：Circa Yokoska et Staoura—原文通り（Savatier，No. 1531，1879—文献産地，Enum. Pl. Jap.）—この横須賀や下浦の付近に昔は自生していたのであろうか、サバチェーが採集しているから誤りではないであろうが、その後今日まで誰も確認したものはいない。

藤沢市：鶴沼藤ヶ谷（ふじがやつ）4丁目の廃耕田（寺島浩一，1967. 6.）；同（神保均夫妻，1967. 7. 28 確認）；同（大谷 茂，1968. 5. 15 YCM）；同（同，1968. 9. 2 YCM）；同（同，1968. 10. 30 YCM—間瀬美保子氏栽品を標本にした）；同（大谷 茂・間瀬欣弥・間瀬美保子，1970. 10. 26 現地視察，豊富な群落を確認—間瀬美保子氏から昭和45. 10. 22 電話で、宅造のブルトーザーが付近に入っているの、早く視察した方がよいと注意をうけたので現地巡検となった）；同（大谷 茂・齋藤 実，1971. 5. 15 現地視察—このときは神奈川新聞社の当時の横須賀支局長齋藤氏を案内したときで、休耕田の畦畔はごっそり掘り採られた形跡が瀟然としているのにおどろいた。しかしまだタウコギ、クマビエ、オオアカウキクサ、コガマなどが生い繁る休耕田の内部には小群落が散在していた—このときのことが“水生シダ「デンジソウ」の群生地、絶滅の危機”として神奈川新聞に5月17日報道された。

平塚市： 中原（なかはら）の水田に自生していたが現在はないと守矢淳一氏はのべている。

足郡下郡： 橋町（朝倉修一・飯田 和・田代信二・西尾和子，1957—文献産地）；同（西尾和子，1957. 7. 10 YCM）。

小田原市： 曾我（秋山 守，1948. 6. 20）。

デンジソウ科は日本には1属2種で、このデンジソウとナンゴクデンジソウ *Marsilea crenata* PR. [一薩摩の池田湖畔，奄美群島，沖縄，台湾に分布するが著者は指宿市池田湖畔で採取している，1968（昭和43）. 8. 7—] だけである。デンジソウは本県のシダとしては、稀少価値となっている貴重な植物である。

デンジソウは著者にとって思い出の植物である。昔は文部省試験検定制度があって、独学で師範学校・中学校・高等女学校の教員免許状が取得できたのである。これは傍系からの唯一の登竜門であった。単に「文検」といって、心あるものはこれを目標に研究の道に入ったのであった。この「文検」制度も戦後廃止されてしまった。著者は大正14年植物科を受験し学術試験にパス、本試験は東京の小石川植物園で行われた。そのときの試験委員の1人であった山内繁雄博士の出題のうちに、デンジソウがあった。それも根茎と葉柄の1部があって、その下部の方に孢子嚢果のついたもので葉の部分は取りさられていた。後に先生の話に金沢八景付近の水田から採取されたことがわかった。

25 Salviniaceae サンショウモ科

Salvinia Adans. サンショウモ属

[262] *Salvinia natans* (LINN.) ALLIONI サンショウモ（松村，1884）Th D₁ R₄ (Fig. 6)

川崎： 登戸（東邦大学薬学科第2回卒業生，1932—文献産地）。

横浜： 帷子川流域（出口長男，1952—文献産地），鶴見三ツ池付近（神奈川県立鶴見高等学校生物部，1952—文献産地），戸塚（村上司郎，1958. 8. 15）。

横須賀： 横須賀付近，全く稀（Savatier，1879，No. 1532—文献産地），久里浜（大谷茂，1955. 10. 21 YCM）。

葉山： 下山川上流，やなんさく谷（田中すき子，1953 YCM）；同，木古庭字藪付近うまの背谷の水田（大谷 茂，1956. 9. 15 YCM）；同（同，1960. 6. 28 YCM），下山口水源池入口付近の水田（小板橋八千代，1968. 10. 1 YCM）。

高座郡： 綾瀬町保谷（秋山 守，1971. 8. 21）。

平塚市： 下吉沢，しもきさわ（守矢淳一，1969. 9. 28—稀），纏（まとい）字友牛の水田に群生（守矢淳一，1971. 8. 27 YCM）。

足柄上郡： 足柄（朝倉修一・飯田 和・田代信一・西尾和子，1957—文献産地）。

箱根： 箱根（松浦茂寿，1958—文献産地，箱根植物目録）。

サンショウモ属は日本にはサンショウモ1種を産するのみである。

26 Azollaceae アカウキクサ科

Azolla Lam. アカウキクサ属

[263] *Azolla Japonica* FRANCH. et SAVAT. オオアカウキクサ (牧野・根本, 1921)
HH (e) D₁ R₄

川崎：登戸 (東邦大学薬学科第 2 回卒業生, 1932—文献産地, この報告書にはアカウキクサとあるが, 本種の誤りである)。

横浜：帷子川流域 (出口長男, 1953—文献産地), 戸塚 (Kazuko・M. Hasegawa, 1967. 12. 16 TI)。

三浦市：小網代奥の水田 (大谷 茂, 1960. 1. 21 YCM)。

葉山町：木古庭 (小板橋八千代, 1966. 11. 21 YCM)。

平塚市：土屋, つちや字惣領分, そうりょうぶん (守矢淳一, 1969. 6. 7), 同市南金目, 千須谷 (せんずや) 地方に多いと守矢氏は報告している。

小田原：各地 (朝倉修一・飯田 和・田代信二・西尾和子, 1957—文献産地)。

箱根：箱根 (松浦茂寿, 1958—文献産地, 松浦氏はアカウキクサとしているが, オオアカウキクサの誤認である)。

この属は日本に本種とアカウキクサ *Azolla imbricata* (ROXB.) NAKAI の 2 種を産する。杉本順一氏はアカウキクサを 1920 年頃静岡で採集しているが (1953), 珍しいことで, アカウキクサはおもに近畿以南に分布しているものである。神奈川県各地に普通見られるものはオオアカウキクサである。

おわりに

この報告は先に著者が発表した神奈川県植物誌 (1958) の羊歯植物部門の全面的訂正である。

本報告で一応は終了したのであるが, 昭和 41 年 (1966) に第 1 回を記載して以来 10 年間もかかっているのだから, 相当の資料も新たにできてきているのは当然である。

したがって近く引きつづいて, 全部にわたる増補訂正を予定している。

文 献

- 朝倉修一・飯田 和・田代信二・西尾和子. 1957. 小田原付近の羊歯植物目録, 箱根シダ植物調査綜合一覧表 (調査日程, 早川上流 8 月 16 日, 台ヶ岳 (仙石原) 8 月 17 日, 双子山 8 月 18 日, 金時山 8 月 19 日): 6~9.
- 安藤三郎. 1963. 第 2 回神代植物公園シダ植物展示会出品目録. 日本シダの会々報 (69): 8 (511).
- 別府 穰. 1971. “イワダレヒトツバ” 九州で初発見. 日本シダの会々報 2 (6): 1 (53).
- 出口長男. 1953. 多摩丘陵帷子川流域の植物: 19. 20.
- 出口長男. 1968. 横浜植物誌: 64, 65.
- FRANCHET, A. and SAVATIER, Lud. 1879. Enumeratio Plantarum in Japonia Sponte crescentium, II: 194 (No. 2292), 195 (No. 2293, 2295), 245 (No. 2460), 246 (No. 2461, 2464), 247 (No. 2465), 248 (No. 2473), 250 (No. 2477).
- 林 弥栄・小林義雄・小山芳太郎・大河原利江. 1961. 丹沢山塊の植物調査報告. 林業試験場研究報告. (133): 49~50.
- 井上康彦. 1965. フグレイワヤナギシダ (新品種). 日本シダの会々報. (75): 3.

- 飯田 和. 1963. 小田原付近における羊歯植物の知識 II. 小田原生物談話会々報, (2): 3.
- 飯田 和. 1966. 神奈川県下のシダ植物近況 (2). 小田原市郷土文化館研究誌, 自然科学 (2): 15.
- 岩崎灌園. 1828. 本草図譜.
- 倉田 悟. 1959. イワダレヒトツバ, シダ類ノート (19) no. 58, 北陸の植物 8 (1): 16~18.
- 倉田 悟. 1959. 1958 年度日本シダ界十大ニュース. 日本シダの会々報 (37): 3 (201).
- 倉田 悟. 1965. フギレイワヤナギシダ (新品種). 北陸の植物, 13 (3): 72.
- 川島俊助. 1963. 第2回神代植物公園シダ植物展示会出品目録. 日本シダの会会報, (69): 8 (511).
- 神奈川県植物調査会. 1913. 箱根植物: 17, 22, 43~45, 65, 72, 98, 99, 101~103, 149, 150~151.
- 神奈川県博物調査会. 1933. 神奈川県植物目録: 108~110.
- 神奈川新聞. 1974. 7. 3. シダ類植物群落, 跡を断たぬドロボウ, 貴重なイワダレヒトツバ—自然の中の文化財 (25).
- 牧野富太郎. 1931. 石章, 註頭国訳本草綱目, 第6冊: 532.
- 松浦茂寿. 1958. 箱根植物目録: 4~7.
- 宮代周輔. 1958. 神奈川植物目録: 98.
- 水野瑞夫. 1964. イワダレヒトツバ犬山 (尾張国) に産する, 北陸の植物 13 (2): 52~56.
- 村瀬信義. 1960. 丹沢山塊植物目録: 2~3.
- 守矢淳一. 1970. 平塚市しだ目録: 18.
- 行方富太郎・倉田 悟. 1961. 日本産シダ植物総目録: 328~337.
- 西田 誠・栗田子郎・大場秀章. 1964. シダ植物の分布と生態. 丹沢・大山学術調査報告書: 183, 185.
- [予備調査コース (西田) 1962. 7. 2~3, 箒沢—石棚山—桧洞丸—蛭が岳—丹沢山—塔が岳—タライ小屋沢—札掛. 本調査コース (西田, 栗田, 大場) 1962. 8. 22~24, ヤビツ峠—札掛—タライ小屋沢—塔が岳—竜が馬場—塔が岳—幽神—桧洞沢—幽神—玄倉].
- 大村敏明. 1959. イワダレヒトツバ (1958年6月撮影の写真). 北陸の植物 8 (1): 37 図.
- 大谷 茂. 1963. フギレミツデウラボシ. 横須賀市博物館研究報告, 自然科学 (8): 97.
- 大谷 茂. 1966. 神奈川県の羊歯植物 (1). 同上 (12): 31~51, 図版 7, 8.
- 大谷 茂. 1972. 神奈川県の羊歯植物 (7). 同上. (19): 23~29, 図版 4, 5.
- 沢田武太郎. 1935. 箱根植物雑記 (其二). 植物研究雑誌 11 (2): 47, 49.
- 里見信生. 1961. イワダレヒトツバの新産地. 北陸の植物 10 (2): 38.
- 杉本順一. 1962. 静岡県水窪のシダ植物. 日本シダの会々報 (60): 5 (432).
- 杉本順一. 1966. 日本草本植物総検索誌 (シダ植物篇): 363, 368, 369, 375, 377~378, 383~384, 389~390, 393.
- 芹沢俊介. 1970. イワダレヒトツバとその類似種. 日本シダの会々報 2 (4): 2~3 (38~39).
- 志村義雄・黒沢美房. 1971. 遠江水窪川流域のシダ植物. 植物と自然 5 (3~4): 22.
- 帝国女子医学薬学専門学校 (現, 東邦大学) 薬学科第2回卒業生. 1932. 武蔵登戸附近植物目録: 62~63.
- 田代信二・飯田 和・西尾和子. 1958. 西丹沢シダ目録 第1輯 (採集地と採集月日: 西沢—8. 18, 用木沢—8. 19, 白石沢—8. 20): No. 51~No. 54.
- 田中康義. 1960. 遠州にイワダレヒトツバ産す. 日本シダの会々報 (46): 5 (291).
- 鳥居喜一. 1944. 東三河植物目録.
- 歌川義男. 1955. 城山 (神奈川県) 採集記. 野草 (197): 6~7.
- 矢田部良吉. 1891. A New Japanese Polypodium, *Polypodium Okuboi*, オオクボシダ, 植物学雑誌 5 (48): 35~38, (付, 第21 図版—全形と解剖図).
- 米田定弘・遠山三樹夫. 1950. 三ツ池附近植物目録, 神奈川県立鶴見高等学校生物教室: 42.



Fig. 1. *Marsilea quadrifolia*, Fujigayatsu Kugenuma Fujisawa, Prov. Sagami. デンジソウ (相州藤沢鵜沼藤ヶ谷 Oct. 30, 1968 間瀬美保子氏栽品を腊葉標本に作製, その標本を蟹江康光氏撮影)。



Fig. 2. *Pyrrhosia Lingua*, Hatatateiwa, Kinugasa, Yokosuka, Prov. Sagami. ヒトツバ (相州横須賀衣笠城趾旗立岩南側斜面, Jan. 7, 1972 古谷勝二氏撮影)。



Fig. 4. *Pyrrhosia pekinensis*, Yamakita, Prov. Sagami? イワダレヒトツバ (相州山北? 鈴木吉五郎氏植栽, 撮影。Nov. 19, 1963 寄贈)。

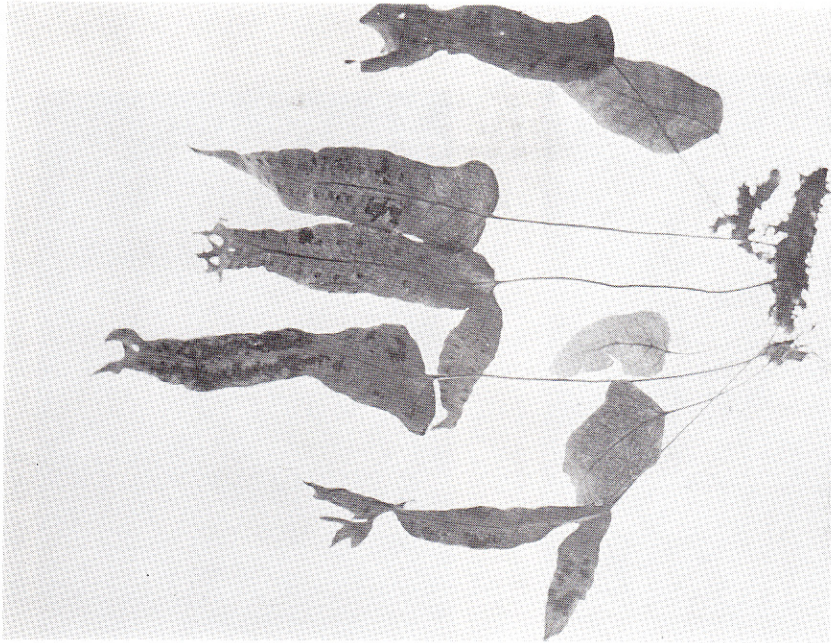


Fig. 3. *Crypsinus hastatus* form. *cristatus*, Jufukuji Kamakura, Prov. Sagami. ヤトミウラボシ (相州鎌倉寿福寺, Oct. 11, 1974 採取標本を蟹江康光氏撮影)。



Fig. 5. *Pyrrrosia pekinensis*, Yamakita, Prov. Sagami. イ
ワダレヒトツバ (相州山北, Dec. 29, 1968. 西山清治氏採
植栽, Jan. 21, 1974 撮影)。



Fig. 7. *Pyrrrosia linguata*, Takatoriyaama, Yokosuka, Prov.
Sagami. ヒトツバ (相州横須賀, 鷹取山, Aug. 28, 1959 大
谷 茂撮影)。



Fig. 6. *Salvinia natans*. Matoi, Hiratsuka, Prov. Sagami.
サンショウワモ (相州平塚, 纏子友牛, Sept. 20, 1971 守安淳
一氏撮影)。



Fig. 8. *Cripinus Veitchii*, Yuushinzawa Mts. Tanzawa,
Prov. Sagami. ミヤマウラボシ (相州丹沢山塊幽神沢, Aug.
3, 1960 秋山 守氏撮影)。